



医療



中日ドラゴンズ



ナゴヤドーム



地域連携



夢チューブ

大野選手が応援団長！クラウドファンディング「夢チューブ」で資金調達 小児がんと闘う子どもたちを中日ドラゴンズの試合へ招待

去る2019年春、4年に1度、全国の医療従事者約3万人が一同に会する「日本医学会総会」が中部で開催されました。「今回の医学会総会をきっかけに、今後も続くプロジェクトを立ち上げたい」。そんな思いからはじまったのが、小児がんと闘う子どもたちを笑顔にして夢を与える「子ども夢プロジェクト」です。

医学会総会のワーキングメンバーの先生である名古屋大学小児科教授と中日ドラゴンズ、ナゴヤドームの全面的な協力を得て、小児がんと闘う子どもたちを試合に招待することを企画しました。資金を集めるにあたっては、中日新聞が運営するクラウドファンディング「夢チューブ」を活用し、支援者を募集。中日ドラゴンズの大野奨太選手を応援団長として迎え、観戦チケットやオリジナルタオル、メッセージカードなどを返礼品として準備したところ、総額220万円を超える支援金が集まり、目標額の111%を達成しました。そして、3月21日にナゴヤドームで行われた中日ドラゴンズとオリックス・バファローズのオープン戦に、中部8県の大学病院に通院中の子どもたち、またサバイバーの子どもたち30組70名を招待しました。

当日、参加した子どもたちが、目を輝かせながらグラウンドに降りる姿を見て、来年も継続し、医学会総会のレガシーとできればと考えています。

名古屋本社 広告開発部 橋本真実



▲当日はドラゴンズが見事な逆転勝利！



▲試合終了後、与田剛監督、ドラ、大野奨太選手とふれ合い



▲最後はグラウンドで記念撮影を行いました

小児がんと闘う子どもたちを中日ドラゴンズの試合へ招待しよう！

このプロジェクトは
2019/02/01に終了いたしました。
応援いただき、ありがとうございました。

見られたネット数 510

募りまで必要額 **¥2,224,000**

目標金額 ¥2,000,000

このプロジェクトは実行保証制度です。

※ 収入が入り次第抽選する

▲大野奨太選手が応援団長に！クラウドファンディング「夢チューブ」で支援を募りました

小児がんと闘う子どもたちを中日ドラゴンズの試合へ招待！
中部8県30組70名の子どもたちとご家族が楽しみました。

3月21日、ナゴヤドームで行われたオリックス・バファローズとのオープン戦をみながら、ドラゴンズが毎年開催している「子ども夢プロジェクト」の支援者として参加した子どもたちとご家族が、選手が試合後にグラウンドを歩けるグラウンドワークを満喫。最後は、与田監督や大野奨太選手、ドラと一緒に記念撮影をしました。

夢チューブ「夢チューブ」結果発表

▲当日の様子が載録（2019年4月27日付 中日新聞）

当日参加してくれた「小児がんと闘う子どもたちの声」

- ・ぼくたちを励ましてくれるイベントを開いてくれてお礼を言いたいです。選手たちの活躍を撮りたくてカメラを持ってきました。(小4・男子)
- ・ナゴヤドームで応援できるのを楽しみにしていました。選手たちもぼくたちのことを応援してくれていると思うと心強いです。(中1・男子)
- ・今日はがんと闘っている仲間たちにたくさん会えて勇気がわきました。完治目指して頑張ろうという気持ちが強くなりました。(中3・男子)

クラウドファンディングに参加した「支援者の声」

- ・障がいを持つ息子の父親として他人事とは思えません。スポーツを介してプロジェクトが行われるところに共感を覚えます。(41歳・男性)
- ・新聞でこの取り組みを知り、私も協力を決めました。たとえいつかでもがんと闘う子どもたちに喜んでほしいと思ったからです。今日、招待された子どもたちの笑顔を見て、自分のおもいが果たせたと感じました。(75歳・男性)

載録の広告を見た「読者の声」(J-MONITORより)

- ・夢と希望がある広告だと思う。この広告を見ると自分にも何かできないかと考えさせられる。とても勇気が出た。(29歳以下・女性)
- ・クラウドファンディングで社会的価値のあることをやっていると。思った。(50代・男性)
- ・個人では難しい支援も大きな組織ならできることがある。これからも続けてほしい、自分もできることがあれば協力したい。(60代・女性)

※一部抜粋